

「家庭科」学習指導案

1. 日時 平成26年 9 月

2. 場所 被服室

3. 学部・学年・組 中学部 第2学年

4. 単元名 「まるぼねTシャツを作ろう」

5. 単元目標 ①PTA バザーおよび宿泊学習で着用するTシャツを製作する。
②布や糸を用いて、自分らしい「まるぼね」を表現する。
③友だちの作品を鑑賞する。

6. 生徒観 略

7. 教材観

「まるぼね」とは、本校中学部の美術教員が考案した、たんぼぼが語源の“根っこのある、まるい花”のことである。昨年度末、美術の授業で「まるぼね」を製作し、すでに生徒たちにもなじみのある素材である。そこで、すでに生徒の中でイメージとしても定着している「まるぼね」を、行事で着用するTシャツの模様に取り入れることで、学年の一体感を表現しようと考えた。

今回は「まるぼね」Tシャツ作りを通して、各生徒のオリジナリティを表出したい。花芯部分は美術の時間に作成し、「まるぼね」Tシャツ作りを家庭科と美術との共同作業で行う。好きな色や模様の布を選び、布を裂いたり切ったりしたものを組み合わせることでオリジナルの「まるぼね」を作っていく。はさみを使う場合は、布を丸く切ることで端のほつれがある程度抑えられる。各自の布の裁ち口が味わいのある個性的な花に仕上がっていく。また、さまざまな布の素材を用意し、独自のセンスで色や模様を組み合わせ、コサージュを作り、自分の「まるぼね」に仕立てることができる。布を重ねるのには、それぞれの技量に応じて手芸用ボンドや糸を使用することで対応していく。

8. 指導観

10月末～11月にかけて、PTA バザーと宿泊学習が行われる。PTA バザーでは各グループの成果物を自分たちで販売する。バザーで自作のユニフォーム(Tシャツ)を着用することで、販売に対する意欲を高め、バザーへの取り組みを周りからも理解してもらいやすい。また、自作のTシャツを校内で発表する場にもなりうる。宿泊学習では、視覚的に周りからも自分たちからも1つの集団だと分かりやすく、校外において自分の個性を表現しうるよい機会となる。

Tシャツ作りは、間近に迫った行事に対する意識づけにもなる。みんなで同じTシャツを着て行事に参加するという期待を持ちながら、楽しんでTシャツ作りに取り組んで欲しい。

9. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・「まるぼね」をイメージして、作りたい「まるぼね」の絵が描ける。 ・分からないことは、自分からたずねることができる。 ・友だちの作品をみて、味わうことができる。	・自分の好きな色や模様の布を選ぶことができる。 ・花のように、布を重ねて、自分の作りたいコサージュを表現する。 ・活動をふりかえりながら、自分や友だちの作った「まるぼね」Tシャツを披露する。	・はさみで布を丸く切ることができる。 ・ボンドや糸で布を固定することができる。	・「まるぼね」や「コサージュ」を作る工程を理解できる。

10. 単元の指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第一次	1	概要説明およびデザイン決め	○			○
第二次	2 (本時)	「まるぼね」をつくる	○	○	○	
	3					
	4 5	コサージュの土台をつくる		○	○	
第三次	6	ファッションショー(発表)	○	○		○

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ①見本に注目し、自分の作りたい「まるぼね」をイメージできる。
- ②説明を理解し、見通しをもって作業に取り組める。
- ③オリジナルの「まるぼね」を作成することができる。

(2) 本時の評価規準

- ①見本を参考にした自分のデザイン画をもとに、「まるぼね」を作ることができる。
- ②説明を聞いて、作業に取りかかることができる。また分からないことは、聞くことができる。
- ③素材を選び、布やフェルトを使って自分の「まるぼね」を作ることができる。

(3) 本時で扱う教材・教具
布、フェルト、布用ボンド、糸、針

(4) 生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準・評価方法
10分 導 入	①あいさつ ・日直が号令をかける ②出席確認 ・呼ばれたら挙手と声を出して、返事する ③本時の予定説明 ・本時の流れを聞く	① 日直に号令をかけさせ、着席時には全員正しい姿勢で座っていることを確認する。 ② 返事のときにこちらの顔を見させる。 ③ 生徒に板書を読んでもらい、説明を聞くことを意識させる。	
50分 展 開	作り方の説明を見る ②材料を選ぶ ・3通りのデザインごとにコーナーを設け、自分の好きな布を選ぶ。 ・布をはさみで切る。または、手で裂く。 ③花の形を作る ・花の形になるように、布と布を重ね、最後に糸または布用ボンドで接着する。	① よく見えるように、椅子を前にもってきて教卓を囲ませる。 ② 自分のデザイン画をもとに、適当なコーナーに移動させる。必要に応じて言葉をかける。めやすとなる丸い円の印をはさみで切る。裂く場合は、裂く部分に切れ込みを入れて裂きやすくする。 ③ 手縫いのできる生徒は、糸と針を使って布同士を固定させる。玉止め玉結びができないなど、必要に応じて一緒に行う。手芸ボンドを使う場合は、トレーに出したものを必要分へラで取って使用する。	・「まるぼね」の作り方をしっかり見ることができる。 ・説明をよく聞き、自分のデザイン画にあった素材場所に移動することができる。 ・利き手のはさみを選ぶことができる。 ・切れ込みに沿って、裂くことができる。 ・作業でわからないことがあれば、教員に助けを求めることができる。 ・上から下、下から上と糸が回ることなく手縫いができる。 ・適量のボンドで、接着することができる。
10分 ま と め	①片付け ・途中の作品と、使った道具を教卓に返却する。 ・周辺のごみを拾い、ごみを捨てる。 ②振り返り ・本時の活動を振り返り、1人ひとりがんばったと	① 終了10分前に言葉をかける。作品保管用の袋に入れて、教卓上のかごに返却する。 「5つごみを拾うこと」を目標に、全員でごみを拾うようにする。 ・みんなの前で1人ひとりの作品をみせ、お互いの製作途中の作品を	

	ころを発表する。 ③あいさつ ・日直が号令をかける。 ・「ありがとうございました」と言う。	披露する。 ・日直に号令をかけさせる。	
--	--	------------------------	--

(6) 教室配置等 略

*備考

◇当該教科・領域の年間指導計画 略